

## 重井小学校校歌

作詞 木下夕爾

作曲 森 輝夫

- 一 静かにたたえる みどりの海の  
潮のかおりの かよう窓べ  
やさしく われらに ささやく声よ  
新しく 新しく 耳をすませて  
われらは われらは 重井の健児
- 二 朝も夕も 白滝山に  
仰ぐ真白の 雲つばさ  
明るく われらを さそう光よ  
清らかに 清らかに 夢をそだてて  
われらは われらは 重井の健児
- 三 平和な ふるさと わが因島  
心ひとつに つどう窓べ  
大きく われらの かざすのぞみよ  
力ある 力ある 足ふみしめて  
われらは われらは 重井の健児

### //// 校歌の由来 ////

昭和34年、桑原途夫校長先生の発案で、新しい時代にふさわしい自分たちの校歌がほしいという子どもたちの願いをかなえるために、当時重井小学校に勤務されていた横田徳造先生が、校歌制作に尽力された。

横田先生は、子どもたちの願いをかなえてやりたい、子どもたちの心にやさしさと未来への希望を育むような歌声をもたせてやりたいという思いで、それにふさわしい作詞者を考えたすえ、木下夕爾さんに依頼することにした。木下夕爾さんは、近郷に住んでいて、中央の詩壇にも名が通っている。また、心温まる「少年詩集」の著作もあった。一面識もない中で、居所を訪ね、重井の子どもたちのことを話すと快く引き受けてくださった。

幾日か経って、重井の町にこられた夕爾さんは、教室を回って子どもたちの様子を見られ、校庭にも立ち、さらに重井の全域が見渡されるよう、学校の南側にある丘、柏原廟のあるところまで登られた。夕爾さんは、言葉少なくあたたかいまなざしでゆっくりと町内を眺め、白滝山にも目を注がれていた。そうしてでき上がったのが重井小学校歌の詞である。

作曲は、当時のPTA役員をされていた村上右長さんの紹介で、服部良一さんの弟子に当たる森輝夫さんに依頼した。曲譜ができ、全校で練習を重ねた。高音が子どもには難しいという意見が出て、作曲者の森さんに来ていただいて直接ご指導を受けたということがあった。